

# 農地保有合理事業等ユーザーのご紹介

## 農業公社だより「アグリランド」から

表内をクリックすることにより各号をご覧ください

第1号 / 1999 . 1.20	第2号 / 1999 . 10.1
第3号 / 2001 . 1. 1	第4号 / 2002 . 4. 1
第5号 / 2003 . 1. 1	第6号 / 2004 . 4. 1
第7号 / 2005 . 4. 1	

農業公社だより

社団法人石川県農業開発公社  
金沢市幸町12番1号  
TEL 076-322-1876  
FAX 076-322-2438  
http://www.fhll.or.jp

# アグリランド

第7号  
2005.4.1

 **新規就農から5年で中日農業賞の優秀賞を受賞!**



第64回中日農業賞の優秀賞を受賞した高利亮さんと妻 博子さん(七尾市能登島)。  
高さんは、平成12年度に会社の「就農促進リース推進事業」を活用し、営農を開始してから5年目での受賞となりました。おめでとうございます。



就農相談会の様子。  
就農にあたっての疑問や相談に熱心に答えたり、アドバイスしたりします。(公社は年6回程度参加)

# ユーザーの紹介

## 大規模稲作経営をめざして

### 辻本長衛(48才)認定農業者

羽咋市千田町お38番

1. 公社利用のきっかけ  
平成5年、集落内の規模縮小農家から2.0haの水田を取得する際に公社を利用した。
2. 経営の概要  
水田9.8ha(うち自作地6.5ha)及び10haの作業受託を行なっている。
3. 公社利用の感想  
大規模農業経営育成助成金(2.0ha当たり40万円・5年間で計200万円)の交付を受けた事が、取得初期の負担軽減となり、経営の健全化に大きなメリットがあった。



## 河北潟干拓地に「バラ」を咲かす

### 田中浩二(38才)バラ栽培 (ハウス面積 2,300㎡)

河北郡津幡町緑が丘2-11

1. 公社利用のきっかけ  
サラリーマン時代からの鑑賞バラの趣味を本業にして、平成6年11月・河北潟干拓地6,000㎡を購入し営農を開始する。
2. 経営のあらまし  
切花の生産販売のほか、花教室・バラ入りソフトクリームの製造販売・フラワーコーディネート事業等バラエティに富んだ経営を展開。
3. 今後の方向  
消費者との交流を深めるため、バラの小公園(1,300㎡)を今年中に開設予定。

## 開発地に酪農の夢を

### 浦根康之(34才)

珠洲市三崎町二本松

1. 公社利用  
昭和60年に国営農地開発地のハヶ山地区に草地9haを購入し酪農を開始。
2. 経営のあらまし  
基幹労働力2.5人で搾乳牛36頭、育成牛20頭の草地酪農を展開している。
3. 今後の方向  
ヘルパー制度のさらなる活用を図るとともに牧草調整機械の整備により作業時間の短縮を進めたい。



# ユーザーの紹介

## 河北潟干拓地に規模拡大を託す

### 宮崎 正利 (35才) 認定農業者

金沢市粟崎町ル 27-33

1. 公社利用のきっかけ  
市街地化に伴い、地域内における経営規模拡大が困難となり、河北潟干拓農地を取得する際に公社を利用した。
2. 経営のあらまし  
すいか 4.0ha、大根 2.0ha(すいかの跡作)、さつまいも 4.0haを栽培している。
3. 今後の方向  
さつまいもを基幹作物として、経営の安定を図りながら規模拡大を進めていきたい。現在普通畑を3.3ha借りており、これに見合う農地を近い将来自作地にしたい。



## 「稲作経営100ha」にチャレンジ

### 大西 権四郎 (55才) (農) 鹿南農産代表 認定農業者

鹿島郡鹿西町西馬場八部7

1. 公社利用のきっかけ  
平成10年2月、5戸8人で農事組合法人「鹿南農産」を設立した。補助事業で導入した施設や機械の自己負担及び運転資金等が不足したため農作業受委託促進特別事業の「受託料前払資金」の融資(無利子)を公社から受け、初度的負担の軽減を図りながら経営の健全化に努めている。
2. 経営のあらまし  
全面請負23ha、作業受託、延べ50ha、大豆(転作)を7ha栽培している。
3. 今後の方向  
地域との密着をモットーに、ほ場の大型化を推進しながら遊休農地の解消と100ha経営の「夢」を実現させたい。

## 「能登開発地に魅せる農業」をめざして

### 前田 忠男 (44才) (有) 前田農園・代表 認定農業者

鳳至郡穴水町大郷ろ-26

1. 公社利用のきっかけ  
昭和58年、農業青年派米研修に参加し大規模農業を経験し、帰国後初めて能登開発地を4ha取得し大規模経営へ踏み出した。
2. 経営のあらまし  
経営面積は12ha、うち開発地は10haで、主にすいか・さつまいも・りんご・ぶどう等を栽培している。
3. 今後の方向  
開発地に栽培している、りんご、なし、ぶどう、さくらんぼ園を活かし、消費者と直接ふれあう「観光農園構想」を着実に前進させたい。



# ユーザーの紹介

## 河北潟干拓地で葉タバコの大規模経営

### 本野信広 (33歳) (有)河北グリーンファーム

金沢市大河端町ホ100

#### 1. 公社利用のきっかけ

平成9年10月「脱サラ」と同時に4人で有限会社「河北グリーンファーム」を設立し、平成11年に東農業開発公社から河北潟干拓農地を4ha購入し、更に8.4haを借入れて、葉タバコ12.4haの経営を開始した。

#### 2. 経営のあらまし

日本たばこ産業(JT)との契約栽培を行うことで、機械化一貫作業体系による大規模経営を行い、経営の安定と良質葉タバコの低コスト生産に努めている。

#### 3. 今後の方向

葉タバコ育苗後のビニールハウスの活用による所得向上と連作障害を回避しながらコンスタントに「10ha」の葉タバコ生産体制を確立するため、更に干拓地を3ha求めたい。



## 米づくりの「プロ」を目指して

### 東田郁三 (59歳) 認定農業者

小松市拓栄町392

#### 1. 公社利用のきっかけ

昭和45年に今江潟干拓地に入植してから、自作地による水稻の経営規模拡大をモットーに計画的に取り組み際の「てこ」として公社を活用した。

#### 2. 経営のあらまし

水稻40ha(うち自作地は15ha)、作業受託19ha、水稻苗48,000箱、大麦(転作)7ha、大豆7ha(うち麦跡6.2ha)

#### 3. 今後の方向

経営技術・栽培技術・機械化技術の更なるレベルアップを回りながら「省力はするが省略はしない」との経営哲学を貫き、近い将来100ha経営を達成したい。

## 21世紀・地域農業の創造をめざして

### 末政博司 (40歳) (有)すえひろ

珠洲市若山町経念2-27-1

#### 1. 公社利用のきっかけ

担い手不足による農地の荒廃を防止するため、平成7年2月仲間4人で有限会社「すえひろ」を設立した。

次代の担い手として周囲より認知されるに伴い、公社を活用し、年々増加しつつある農地集積及び作業受託面積に対応できる機械設備を充実した。

#### 2. 経営のあらまし

水稻36ha、作業受託85ha、育苗13,000箱、転作大豆21ha、畑作(開発地)小豆5ha等。

#### 3. 今後の方向

稲作を中心に、確保できる労働力に即した経営規模拡大を進めながら、作業の効率化と労力の分散化に努め農産物の高品質安定生産及びコスト低減を回りたい。



# ユーザーの紹介

## 米と能登しろねぎで周年就労をめざす

坂本 政之 (60歳) (農事) ファーミングのと 羽咋郡富来町同居わ-31

### 1. 公社利用のきっかけ

担い手不足や耕作放棄地が増えるのを見かねて、平成8年に仲間4人で農事組合法人「ファーミングのと」を設立し、平成9年にほ場整備の不換地を農業公社に介入してもらい、担い手型ほ場整備に取り組んだ。また県の集落営農計画推進事業の採択を契機に農業公社の農作業受委託促進特別事業による無利子資金を活用した。

### 2. 経営のあらまし

水稲17.5ha、転作(麦6.5ha、麦あとそば6.5ha)、能登しろねぎ1.1ha(ハウス18a、転作田92a)

### 3. 今後の方向

現在法人として地域面積の78%を栽培しており、水稲については直はん栽培を拡大し、コスト低減と品質向上をめざす。また労働力の周年雇用の場として「能登しろねぎ」を1.1haから1.5haに規模拡大し、周年出荷に取り組みたい。



## 稲作の大規模経営と地域の発展をめざして

吉田 弘一 (60歳) 認定農業者 加賀市宮地町ト-23



### 1. 公社利用のきっかけ

平成元年長男義弘氏の就農を機に自作地の拡大(1.5ha)に農業公社を活用するとともに、利用権設定等により経営規模の拡大に努めてきた。また3年前から水稲作、転作の全面作業受託が飛躍的に増大し、平成14年高性能コンバインを導入する資金確保のため「農作業受委託促進特別事業(受託料の無利子貸付)」を活用することとした。

### 2. 経営のあらまし

水稲40ha、転作20ha(大豆10ha、そば7ha、地力増進作物1.5ha、管理転作1.5ha)

### 3. 今後の方向

平成14年長男に経営委譲を考慮しており、これを機に法人化し水稲については、田植え時期の延長・土壌に合った品種の選定等作期幅の拡大に努め、また大豆の単収・品質の向上による収益性の高い経営をめざし地域の発展に寄与したい。

# ユーザーの紹介

## エコ農業の実践と経営規模の拡大をめざして

**三輪 和良** (48歳) 認定農業者 羽咋市酒井町うー53

### 1. 公社利用のきっかけ

平成11年に30a、13年に60aの水田を公社介入で取得し経営規模の拡大を図ってきたが、既存のコンバインが耐用年数を経過したため、何か節成事業がないものか検討していたところ、農業公社の「認定農業者リース事業」の紹介を受け、早速14年度4条刈りコンバインを導入し、水稲20haの刈取に威力を発揮した。

### 2. 経営のあらまし

水稲20ha、  
秋冬ねぎ25a(青苗ハウス跡10a、跡地15a<保全管理田8ha)

### 3. 今後の方向

米価低迷の中で、生産した米に付加価値を付けるため、有機米70a、減農薬・減化学肥料・土づくりによる「エコ米」を1/2以上栽培しているが、未整備田が多いことから今後は、地域内の圃場整備の推進と、後継者(現在高校生)の就農に見通しが付けば、消費者に喜ばれる有機米の規模拡大、更に近い将来、経営を法人化して、収益性の高い経営の展開をめざしたい。



## 河北潟干拓地でふれあい果樹園の夢を実現

**浅田 光義** (62歳) 湖北果樹園代表 河北郡宇ノ気町湖北-260



### 1. 公社利用のきっかけ

平成6年に干拓地で1.2haの農地を求め、当初うめを植栽したが、思わしくなく、もももぶどうに改植した。その後5年を経過し本格的な収穫期を迎えたことから、生産物の販売に適した干拓地内の幹線道路に面した公社保有地60aを14年春に取得した。早速直売所を設置するとともに、もも・ぶどう・なしを植栽し、ふれあい果樹園として規模拡大を図った。

### 2. 経営のあらまし

果樹園 190a(1区画60a×3枚)  
もも 105a(15品種)、ぶどう75a(10品種)、なし5a

### 3. 今後の方向

従来全沢市の兼業農家で平成12年まで農業関係の公務員をしていたが、定年を契機に、以前から温めていた夢の実現に向けて、干拓地で本格的に消費者ニーズ(儲け感のある商品・美味しく安全なもの・新鮮で収穫の喜びが味わえるふれあいの場の提供など)を大切にしながら、有機減農薬・省力栽培を中心に地域住民(お客様)とともに、美味しい果物づくりに挑戦したい。

# ユーザーの紹介

## 日本一のさつまいも農家に

**元 林 圭 介** (26歳) 認定農業者 金沢市粟崎町ル27-22

### 1. 公社利用のきっかけ

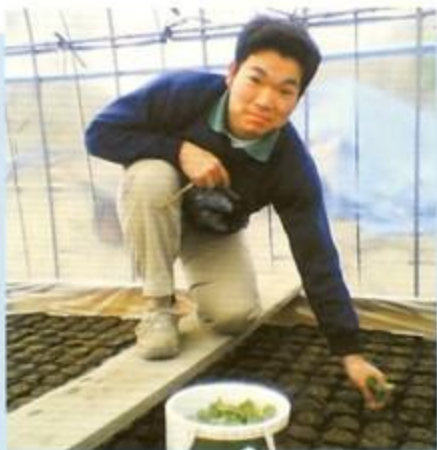
自分の就農により、労働力が増え経営の規模を拡大しようと農地の取得に公社を利用しました。

### 2. 経営のあらまし

さつまいも：5ha、すいか：3haを栽培している。

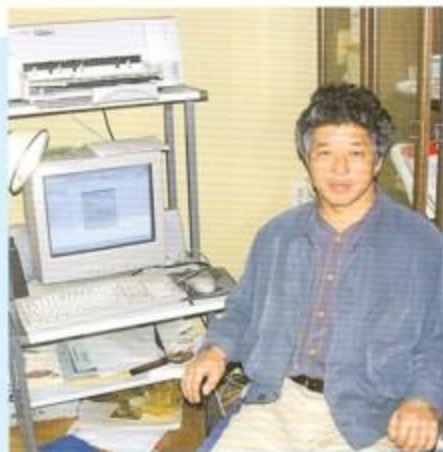
### 3. 今後の方向

さつまいもを基幹作物として経営の安定を図りながら規模拡大を進めていきたい。今後は借地を自作地にしていき、日本一のさつまいも農家になりたい。



## ～赤いダイヤ～ 能登大納言の特産化に取り組む

**皆 口 和 寛** (52歳) (有)みなぐち 代表取締役 珠洲市正院町岡田10部1番1号



### 1. 公社利用のきっかけ

平成8年に、基幹品目である小豆（品種：能登大納言）やすいかの規模を拡大するため、能登開発地を8ha取得した。

### 2. 経営のあらまし

経営面積は、水稲5.3ha及び15haの農地開発地で、小豆7ha、すいか1.5ha、ネギ0.4ha等を栽培している。

### 3. 今後の方向

珠洲の気候、開発地の土を活かした小豆の特産化を図りたい。また、自分で良質の堆肥をつくり、現在取り組んでいるエコ農産物の生産を拡大したい。

# ユーザーの紹介

## Uターンで河北潟干拓地に新規就農

**長屋 和勇 (30歳)** 中能登町字羽坂を部13番地1 (内灘町湖西18番)

### 1. 公社利用のきっかけ

河北潟干拓地での新規就農を志し、大阪からUターンして「いしかわアグリ塾」通年コースで野菜を専攻。平成16年12月に野菜の直売を視野に、内灘町放水路近くの公社有地1筆80aを取得。

### 2. 経営のあらまし (計画)

ビニールハウス8aを建設し、トマト、メロン、小松菜を、残りの露地では、すいか、キャベツ、プロッコリーなどを作付けする。まずは、土作りのため「ゆうきの里」の堆肥投入から始める。

当面、通勤農業になるが、作付ができるようになれば内灘町に引っ越しする。

### 3. 今後の方向

将来は、ハウスを30a、露地栽培を50aくらいにし他品目生産に心がけ、安心、安全、おいしいをコンセプトに、リピーターを増やせる直売を目指す。



## 地域の担い手として親子で大規模稲作

**原 孝次 (57歳) 原 雅幸 (28歳)** (有)フロンティアは5 羽咋市本江町84番地



### 1. 公社利用のきっかけ

平成9年1月に羽咋市第1号の農業法人を設立し、平成10年に合理化事業によって、規模縮小農家から水田を買入れしたのが初めて、以後4回公社利用がある。

### 2. 経営のあらまし

水田18.5ha(うち水稲16.0ha、転作-小菊、トルコギキョウ、ねぎ)  
水稲育苗800枚受託、米の乾燥調製受託

### 3. 今後の方向

米価低迷の中、最低25ha以上の経営を目指している。

地域農業の振興のため、今後も農地の受け皿となり親子で頑張っていきたい。

地球にやさしい米作りをコンセプトに、特殊酵素入り有機質資材を投入し、環境に優しく安全でおいしい米作りに励みたい。